取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

LITE ACE
TOWN ACE

TABLE OF CONTENTS 目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

2 運転するときに

5 トラブルが起きたら

5-1. まずはじめに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

6-2. 初期設定

さくいん

外観（バン）

ヘッドランプ P.162
車幅灯 P.164
ドアミラー P.46
サイドアンダーミラー P.48
方向指示灯 P.164
フロントワイパー P.110
ボンネット P.156

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

外観（トラック）

ヘッドランプ P.162
車幅灯 P.164
ワイパー P.110
ドアミラー P.46
サイドアンダーミラー P.48
方向指示灯 P.164
ボンネット P.156

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内（バン）

助手席SRSエアバッグ P.61
インナーミラー P.45
ルームランプ P.135
サンバイザー P.141
シートベルト P.39
A
リヤシート P.36
ジャッキ・ツールバッグ P.201
ルームセパレーターバー P.145
ヘッドレスト P.38
パーキングブレーキ P.101
フロントシート P.34
発炎筒 P.191
グローブボックス P.138

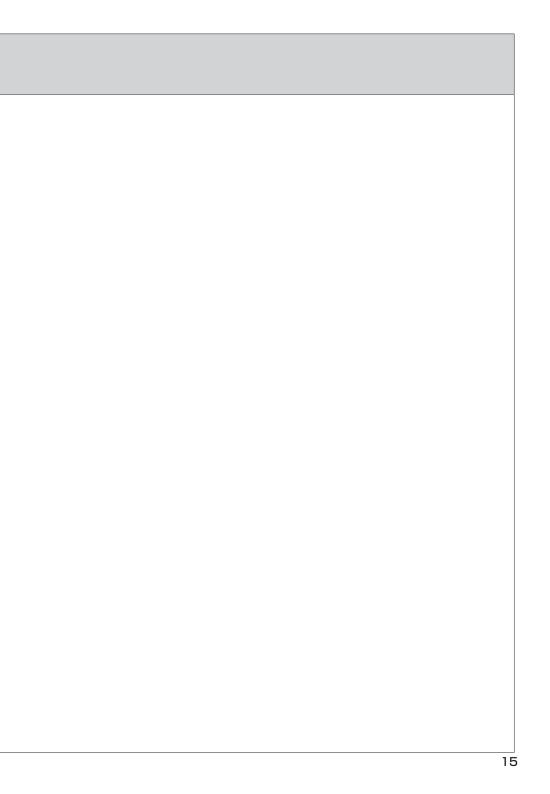
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内（トラック）

助手席SRSエアバッグ P.61
インナーミラー P.45
ルームランプ P.135
サンバイザー P.141
シートベルト P.39
A
パーキングブレーキ P.101
シート P.34
発炎筒 P.191
グローブボックス P.138

＊: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客さまのお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客さまのお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、及び運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取りつけ方などをまとめた「チャイルドシートの取りつけ」（→P.76）をお読みください。

保証及び点検について

保証及び点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客さまの責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客さま自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

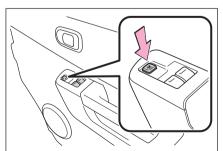
注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

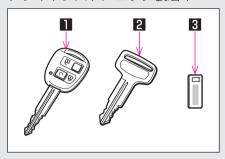
イラスト内の表示について

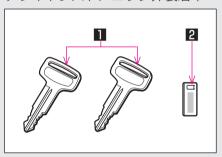
セーフティーシンボル
“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印
スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

1 運転する前に

キー

お客さまへ以下のキーをお渡しします。

▶ワイヤレスドアロック装着車

1 リモコンキー
2 スペアキー
3 キーナンバープレート

▶ワイヤレスドアロック非装着車

1 マスターキー（2枚）
2 キーナンバープレート

知識

■ キーナンバープレート

車内以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。
（→P. 216）

■ 航空機に乗るときは

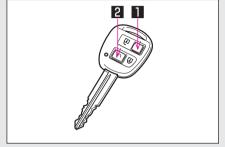
航空機にリモコンキー(ワイヤレスドアロック装着車)を持ち込む場合は、航空機内でリモコンキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■ キーの曲がりなどを防ぐために

キーに衝撃を与えたり、直射日光の当たる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。

ワイヤレスリモコン*

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

知識

■ 作動の合図

室内灯の点灯・消灯（施錠すると減光後消灯、解錠すると約15秒間点灯）と非常点滅灯（施錠は1回、解錠は2回）の点滅で知らせます。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況→P.23

■ 電池が切れたときは→P.181

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 電池の消耗について

電池の標準的な寿命は1～2年です。（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します。）ワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P.181）

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

⚠ 注意

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

ワイヤレスドアロックは微弱な電波を使用しています。次のような場合はリモコンキーと車両間の通信をさまたげ、ワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。

- リモコンキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- リモコンキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 複数のリモコンキーが近くにあるとき
- リモコンキーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
  - 他の車のリモコンキー
  - 電波式ワイヤレスリモコン
  - パソコン
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

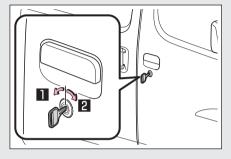
ドア（フロントドア）

ワイヤレス機能*、キー、ロックボタンを使って施錠・解錠できます。

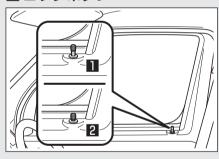
■ワイヤレス機能→P.22

→P.22

■キー

1 解錠※
2 施錠※

※パワードアロック装着車は全ドア解錠（または施錠）されます。

■ロックボタン

1 解錠※
2 施錠※

※パワードアロック装着車は全ドア解錠（または施錠）されます。

キーを使わずに外側からフロントドアを施錠するときは

手順 1 ロックボタンを施錠側にする。

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める。

ワイヤレスドアロック装着車は、キーがエンジンスイッチに差し込まれているときは、施錠されません。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● シートベルトを必ず使用する

● すべてのドアを施錠する

● すべてのドアを確実に閉める

● 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対応できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

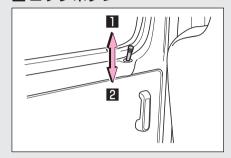
スライドドア*

ワイヤレス機能*、ロックボタンを使って施錠・解錠できます。

■ ワイヤレス機能→P.22

→P.22

■ ロックボタン

1 解錠
2 施錠

知識

■ キーを使わずに施錠するには

ロックボタンを施錠側にしてドアを閉めます。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ **走行中の警告**

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 全てのドアを確実に閉める
- 全てのドアを施錠する
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■ **お子さまを乗せているときは**

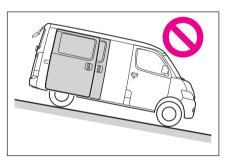
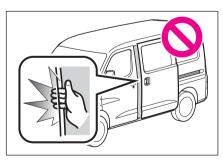
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

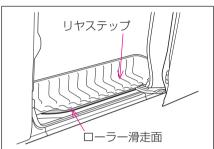
⚠ 警告

■ スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- ●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所ではドアが突然動き出すおそれがあります。

- ●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアに当たったり挟んだりしないよう、注意してください。
- ●下り坂で乗りおりするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- ●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

注意

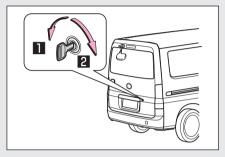
■ スライドドアについて

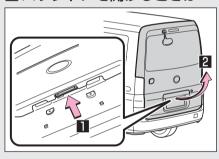
●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外及び車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

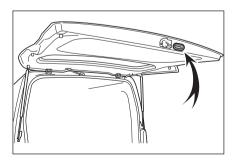
バックドア*

ワイヤレス機能*、キーを使って施錠・解錠できます。

■ ワイヤレス機能→P.22

■ キー

1 解錠
2 施錠

■ バックドアを開けるときは

1 ロックを解除する
2 引き上げる

バックドアを閉めるときは

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■ 走行中の警告

- ●走行中はバックドアを閉めてください。
  開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- ●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
  バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ **バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして命にかかわる重大な傷害におよぶか、　最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

● バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

● 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

● 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

● 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

● バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

● バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

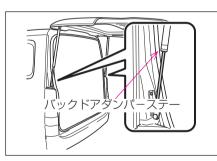
警告

■ バックドアの操作にあたって

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。
  バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

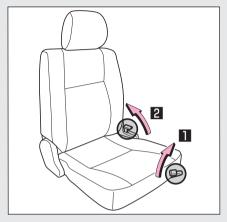
注意

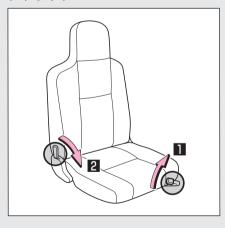
■ バックドアダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのバックドアダンパーステーが取り付けられています。
バックドアダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

■左右シート

▶バン

1 前後位置調整
2 リクライニング調整

▶トラック

1 前後位置調整
2 前倒し

知識

■ 一番後ろまでスライドさせるときは（トラック）

一度前倒ししてから、一番後ろまでスライドさせ、背もたれを起こしてください。（背もたれを起こした状態でスライドさせても、一番後ろまでスライドすることはできません。）

警告

■ リクライニング調整について（バン）

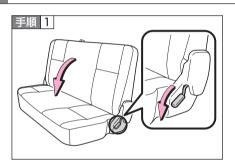
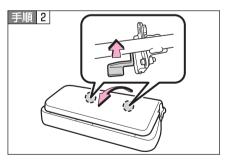
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■ 前倒しについて（トラック）

前倒し後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

リヤシート*

折りたたんでスペースを拡大することができます。

リヤシートの折りたたみ

手順 1 フォールディングレバーを押し下げて背もたれを倒す。

手順 2 シート脚部のレバーを引いてロックを解除し、シートを持ち上げる。

手順 3 シートの脚を押し下げる。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

もとにもどすとき

手順 1 シートの脚を起こす。

手順 2 ゆっくりとシートをおろす。

手順 3 背もたれを起こす。

警告

■ リヤシートの格納について

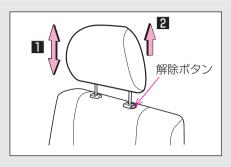
以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートを格納した状態で、ラゲージスペースに人を乗せて走行しない
- 必ず平坦な場所でシフトレバーをオートマチック車はＰ（マニュアル車はＮ）に入れて、パーキングブレーキを確実にかける
- 走行中はシートの格納操作をしない
- シートをもとにもどしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する

注意

■ リヤシートの格納について

- シートをおろすときは、シート脚部と床面ロック部の間に足を挟まないように注意してください。
- シートをおろすときは、床面に物がないことを確認してから行ってください。

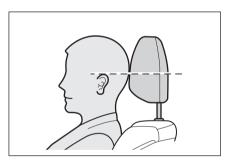
ヘッドレスト*

1 上下調整

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

2 取りはずし

解除ボタンを押しながら取りはずします。

知識

■ ヘッドレストの高さについて

調整式ヘッドレストは、必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて（調整式ヘッドレスト装着車）

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

シートベルト

すべての乗員は走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

■正しく着用するには

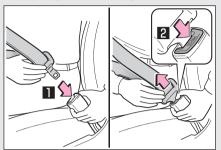
▶3点式シートベルト

- 肩部ベルトを肩に十分かける
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

▶2点式シートベルト*

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

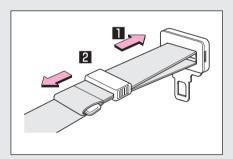
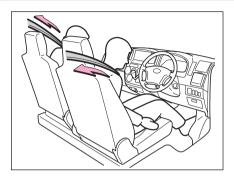
■着け方、はずし方

1 固定
“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除
解除ボタンを押します。

■シートベルトの長さ調節（2点シートベルト）*

1 伸ばす

2 縮める

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

シートベルトプリテンショナー（フロント左右席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果の確保に貢献します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停車や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→P.76）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。（→P.39）

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

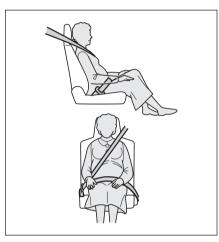
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
  お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

⚠ 警告

■ 妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認のうえ、必ず正しく着用してください。(→P.39)
妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

⚠ 警告

■ シートベルトの損傷・故障について

- ●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- ●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- ●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- ●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- ●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバック/プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

インナーミラー

インナーミラー本体を持って調整します。

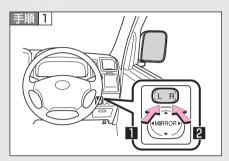
⚠ 警告

■ **運転中の警告**

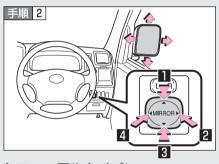
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

▶電動タイプ*

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき、スイッチで鏡面の角度調整をします。

ミラーを選ぶ。

1 L：左

2 R：右

スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する。

1 上

2 右

3 下

4 左

▶マニュアルタイプ*

ミラー全体を手で動かして、鏡面の角度調整をします。

ドアミラーを格納するときは

手で押して格納します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

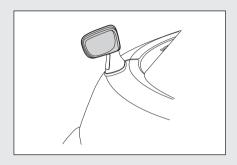
■ **走行しているときは**

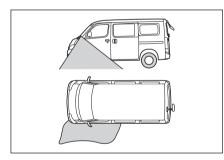
走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

● ミラーの調整をしない

● ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側及び助手席側のミラーを復帰して、正しく調整してください。

サイドアンダーミラー

発進時またはごく低速時に、助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

知識

■ ミラーに映るおよその範囲

バンとトラック、または身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

- ミラーの鏡面は固定式ですので、鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

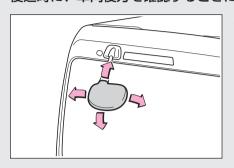
⚠ 注意

■ サイドアンダーミラーについて

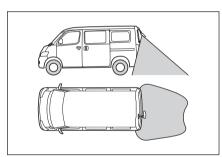
● サイドアンダーミラーの鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。

● 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用し十分注意してください。

リヤアンダーミラー*

後退時に、車両後方を確認するときに役立ちます。

ミラー本体を持って調整します。

知識

■ ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

- ミラーの鏡面は固定式ですので、鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

注意

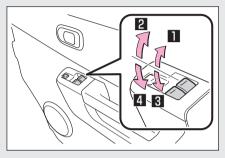
■ リヤアンダーミラーについて

- リヤアンダーミラーの鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両後方の確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用し十分注意してください。

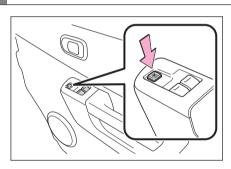
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアガラス

▶パワーウインドウ*

スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉（運転席のみ）※
3 開ける
4 自動全開（運転席のみ）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ バッテリーを再接続したときは（運転席のみ）

パワーウインドウを適切に作動させるために、下記の初期設定をおこなってください。

手順 1 半分までドアガラスを開ける。

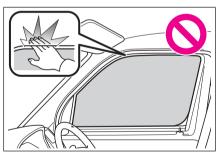
手順 2 スイッチを引き上げてドアガラスを全閉し、そのままスイッチを2秒間保持する。

パワーウインドウ以外のドアガラスの開閉のしかた

ハンドルを回して開閉します。

⚠ 警告

■ ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。

● お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

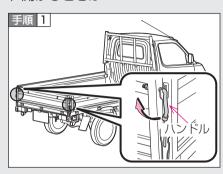
警告

■ **挟み込み防止機能（運転席のみ）***

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

● 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ゲート*

■テールゲート

▶開けるときは

手順1 ロックをはずす。

左右のハンドルを持ち上げ、内側にずらします。

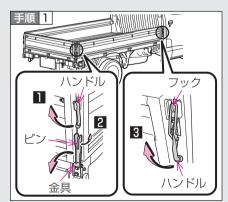
手順2 テールゲートをおろす。

▶閉めるときは

手順1 テールゲートを持ち上げる。

手順2 左右のハンドルを外側にずらし、引き下げてロックする。

■サイドゲート

▶開けるときは

手順1 開ける側のサイドゲートのロックをはずす。

1 上側（リヤ）

ハンドルを持ち上げ、内側にずらします。

2 下側（リヤ）

ピンを回し、金具をおろします。

3 前側

ハンドルを持ち上げ、フックからはずします。

手順2 サイドゲートをおろす。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶閉めるときは

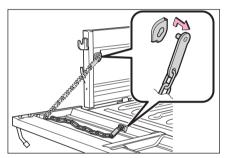
手順 1 サイドゲートを持ち上げる。

手順 2 前側のハンドルをフックにかけ、引き下げてロックする。

手順 3 下側(リヤ)の金具を持ち上げ、ピンを回してロックする。

手順 4 上側(リヤ)のハンドルを外側にずらし､引き下げてロックする。

知識

■ チェーンのはずし方

金具を動かしてはずす。

- サイドゲート側に取りつけると、テールゲートを保持することができます。(はずすときは、ゲートを少し持ち上げながらはずします。)
- 走行中は必ず、テールゲート側に取りつけておいてください。

警告

■ 走行中の警告

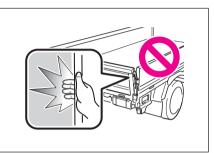
ゲートを開けたまま走行しないでください。荷物が落下したり、ゲートが動いて周囲の人やものに当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ゲートを開けて駐停車するときは

車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。ゲートで非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■ **ゲートを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●周囲の安全を確かめ、ゲートで指などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにはゲートの操作をさせないでください。手、腕、頭、首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●傾斜地では平坦な場所よりもゲートの開閉がしにくくなる場合があります。また、急にゲートが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。

●強風時の開閉には十分注意してください。ゲートが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です。

●ゲートを閉めたときは、確実に固定されたことを確認してください。

注意

■ **ゲートやチェーンの損傷を防ぐために**

ゲートには積荷の荷重をかけないでください。また、ゲートを閉めるときはチェーンがかみ込まないよう注意してください。

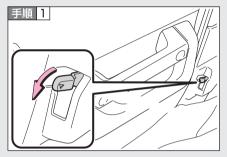
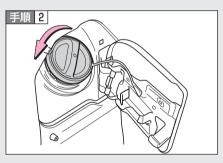
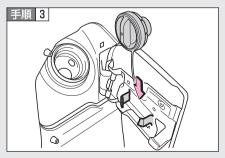
給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■給油する前に

●エンジンスイッチを“LOCK”にして、ドアと窓を閉めてください。

●燃料の種類を確認してください（→P.57）

■給油口の開け方

給油口オープナーを押し下げます。

キャップをゆっくり回して開ける。

キャップをハンガーにかける。

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉めます。

知識

■ 燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率３%以下、含酸素化合物の含酸素率1.3%以下）も使用することができます。

⚠ 警告

■ 給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 車体などの金属部分に触れて体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

● キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくり開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。

● 給油口に、静電気を除去していない人を近づけない

● 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

● 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

● 車内にもどったり、帯電している人やものに触れない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

● ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。

- 給油口にノズルを確実に挿入する
- 継ぎ足し給油をしない

● その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■ キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

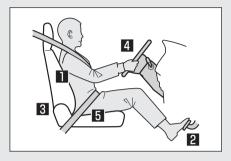
⚠ 注意

■ 給油するときは

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1. まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→P.34）
2. シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→P.34）
3. 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
4. SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようにシートの位置を調整する（→P.34）
5. シートベルトを正しく着用する（→P.39）

警告

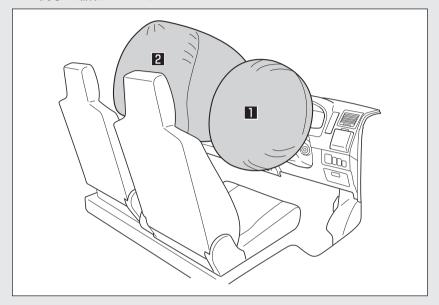
■ 走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

■ シートを調整するときは

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
  指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

1 運転席SRSエアバッグ
（運転者の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 助手席SRSエアバッグ
（助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

知識

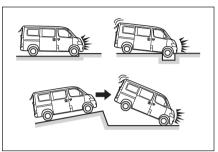
■ SRSエアバッグが作動すると

- ●SRSエアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- ●作動音とともに白いガスが発生します。
- ●フロント席などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- ●フロントドアガラスが破損することがあります。

■ SRSエアバッグが作動するとき

- ●SRSエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約20〜30km/hの速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
  - 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
  - もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- ●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

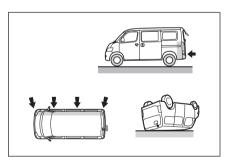
■ 衝突以外で作動するとき

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRSエアバッグが作動しないとき

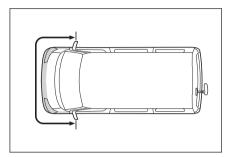
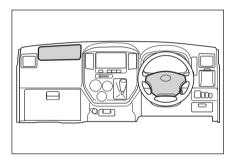
SRSエアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRSエアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■ **トヨタ販売店に連絡が必要な場合**

以下のような場合には、修理・点検等が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

● いずれかのSRSエアバッグがふくらんだとき

● SRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

● ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグが内蔵されている付近のダッシュボードが傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■ SRSエアバッグについて

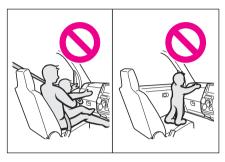
必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRSエアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

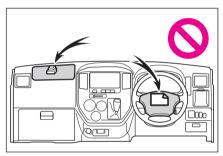
● 助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員がSRSエアバッグのふくらむ場所に近い場合はとくに危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけSRSエアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

● お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。（→P.76）

● シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

⚠ 警告

■ SRSエアバッグについて

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者及び助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●ダッシュボード、ステアリングパッド部などには何も取りつけたり、置いたりしない

●ドアやフロントガラスなどには何も取りつけない

警告

■ SRSエアバッグについて

●SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。

●SRSエアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSエアバッグの取りはずし・取りつけ・分解・修理

●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、フロア足元のSRSエアバッグセンサー周辺の修理、取りはずし、改造

●フロントフェンダー、フロントバンパー、車両車内側面部の修理、改造

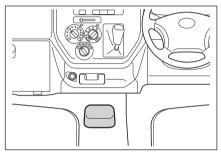
●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取りつけ

●サスペンションの改造

●CDプレーヤー、無線機などの電化製品の取りつけ

⚠ 警告

■ エアバッグセンサーについて

フロア足元のカバー内にSRSエアバッグのセンサーが装着されていますので、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 蹴ったり、強い衝撃を与えない
- 水などをかけない
- 取りはずさない

子供専用シート

シートベルトを使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

● 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。

● 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。

● この車にはISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていません。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　:10kg まで
グループ0+　:13kg まで
グループⅠ　:9 ～ 18kg
グループⅡ　:15 ～ 25kg
グループⅢ　:22 ～ 36kg

この本では代表的な次の3 種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

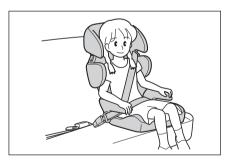
子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ベビーシート

ECE R44 基準のグループ0、0^+に相当

▶チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ0^+、Ⅰに相当

▶ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ、Ⅱ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）（バン）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	L	×
0^{+}（13kg まで）	×	L	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	×	L	×
Ⅱ（15 ～ 25kg）	L	L	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）	L	L	×

●上表に記入する文字の説明

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。
（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」のカテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては、子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

子供専用シートのリスト（バン）

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	トヨタ純正NEO G-Child ISO tether	汎用
0^{+} （13kg まで）	トヨタ純正NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ （9 ～ 18kg）	トヨタ純正NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ （15 ～ 25kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ （22 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）（トラック）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×		
0^+（13kg まで）	×		
Ⅰ（9 ～ 18kg）	×		
Ⅱ（15 ～ 25kg）	L		
Ⅲ（22 ～ 36kg）	L		

● 上表に記入する文字の説明

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています
（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」のカテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては、子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

子供専用シートのリスト（トラック）

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
Ⅱ（15 ～ 25kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）（バン）

この車には、ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていないため、ISOFIX 子供専用シートは使用できません。

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	×
0+ （13kg まで）	E	ISO/R1	×
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ （9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	×
	B1	ISO/F2X	×
	A	ISO/F3	×
Ⅱ （15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ （22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

×：ISOFIX 子供専用シートは使用できません。

知識

■ 子供専用シートの選択、使用について

● お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

● お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

● 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

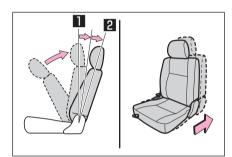
■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P.71)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

知識

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

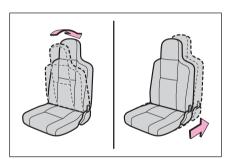
やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

▶バン

●いったん背もたれを前に倒し、1段目の固定位置まで起こし、3段目の固定位置まで調整する

1 1段目

2 3段目

●シートをいちばんうしろに下げる

▶トラック

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げる

⚠ 警告

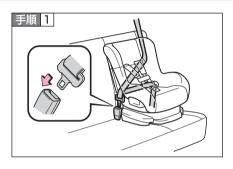
■ 子供専用シートを使用しない場合

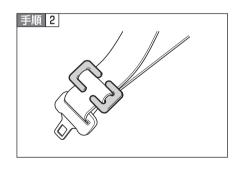
●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、荷室内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトで固定する

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

警告

■ **チャイルドシートについて**

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **チャイルドシートを取り付けるときは**

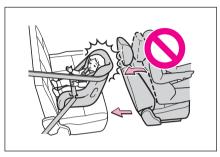
●お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

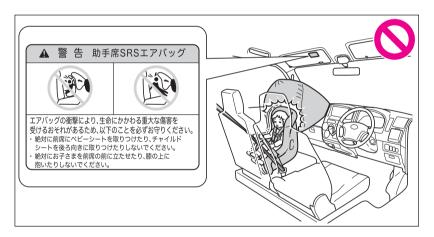
●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

警告

■ チャイルドシートを取り付けるときは

● チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

● 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

● 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

● 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害に受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

警告

■ チャイルドシートを取り付けるときは

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
  助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転するときに 2

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行してください。

■ エンジンをかける（→P.94）

■ 発進する

▶オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする。（→P.97）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P.101）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

▶マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを1速にする。（→P.99）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P.101）

手順 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

▶オートマチック車

手順 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。（→P.101）

長時間停車する場合は、シフトレバーをＰまたはＮにしてください。（→P.97）

▶マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。（→P.101）

長時間停車する場合は、シフトレバーをNにしてください。（→P.99）

■駐車する

▶オートマチック車

手順 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。(→P.101)

手順 3 シフトレバーをPにする。(→P.97)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 4 エンジンスイッチを"LOCK"にしてエンジンを止める。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

▶マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。(→P.101)

手順 3 シフトレバーをNにする。(→P.99)

坂道の途中で駐車をする場合は、下り坂ではR、上り坂では1速に入れ、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 4 エンジンスイッチを"LOCK"にしてエンジンを止める。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

▶オートマチック車

手順1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする。

手順2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

▶マニュアル車

手順1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを1速にする。

手順2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す。

手順3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

知識

■ 雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について（オートマチック車）

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■ 運転標識の取りつけ

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などを、樹脂バンパーに取りつけることはできません。

⚠ 警告

■ 発進する前に

●車のまわりの安全を十分確認してください。この車は構造上、通常の乗用車に比べ車両のまわりの確認がしにくいため、走行前や信号待ち後の発進時は十分注意してください。

●後退するときに十分な視界が得られない場合は、車のまわりの安全を確認後、車から降り、後方の確認をしてください。

■ 発進するときは（オートマチック車）

●ブレーキペダルをしっかり踏み込んだままシフトレバーを操作してください。また、エンジンがかかったままの停車中は常にブレーキペダルを踏み続けてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

●エンジン始動直後（とくに冷間時）は、アイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキを踏んで発進、停止時の運転に注意してください。

■ 運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

警告

■ 運転するときは

- オートマチック車はシフトレバーを前進側に入れたまま惰性で後退したり、Ｒに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バンはバックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし、事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。(オートマチック車)
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーをD(オートマチック車)または1(マニュアル車)に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやか道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 224を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください
  フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P.97)

⚠ 警告

■ **運転するときは**

●ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

●重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。
やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **すべりやすい路面を運転するときは**

●急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ **停車するときは**

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがP（オートマチック車）またはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ **駐車するときは**

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- スプレー缶からガスがもれたり、出火する
- プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ 駐車するときは

● ウインドウガラスには吸盤を貼りつけないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

● シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

● 必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰ（オートマチック車）にしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。

● エンジン回転中または停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

● 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

● 換気が悪い場所では、エンジンを停止してください。
とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

● 排気管はときどき点検してください。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、及び継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ 仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ ブレーキをかけるときは

- 万一のエンジン停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
  ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは（4WD車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 運転中は

● オートマチック車は、坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

● マニュアル車は、クラッチの損傷を防ぐためクラッチペダルに足を乗せたまま走行しないでください。

■ 駐車するときは（オートマチック車）

必ずシフトレバーをＰにしてください。Ｐにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

● パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。

● ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。（ディスクブレーキ）

ブレーキパッドやディスクローター（ディスクブレーキ）、ブレーキライニング（ドラムブレーキ）などの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ●ハンドルが取られる
- ●異常な振動がある
- ●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。(→P.201)

■ 冠水路走行に関する注意

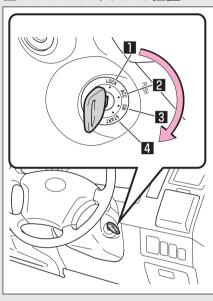
大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン、トランスミッション、トランスファー(4WD車)、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量及び質の変化
- ●プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

■エンジンスイッチの位置

1 “LOCK”
- ステアリングロックがかかります。
- キーを抜き挿しすることができます。

(オートマチック車は、シフトレバーの位置がPのとき、キーを抜き挿しできます)

2 “ACC”
シガーライターなどの電装品が使用できます。

3 “ON”
すべての電装品が使用できます。

4 “START”
エンジンが始動できます。

■エンジンのかけ方

▶オートマチック車

手順 1 正しい姿勢（→P.60）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する。

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 3 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏む。

手順 5 エンジンスイッチを“START”の位置まで回す。

▶マニュアル車

手順 1 正しい姿勢（→P.60）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する。

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 3 シフトレバーがNの位置にあることを確認する。

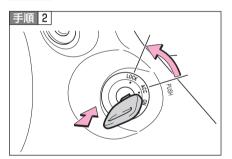
手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む。

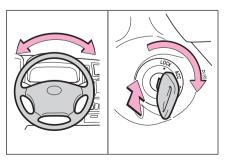
手順 5 エンジンスイッチを“START”の位置まで回す。

知識

■ キーを“ACC”から“LOCK”に回すには

手順 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。（オートマチック車）

手順 2

キーを押し込みながら“LOCK”まで回す。

■ ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、エンジンスイッチを回してください。

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーが差し込んであり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、いずれかのドアを開けると警告音が鳴ります。

警告

■ エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

- 走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
  緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→P.224)
- マニュアル車は、キーを“LOCK”の位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

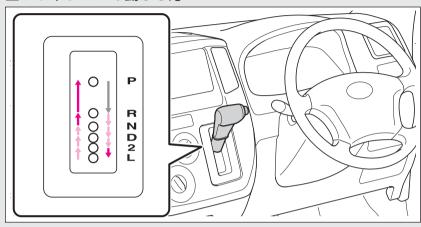
エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するときは

- 一度に30秒以上スターターを回さないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション*

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■シフトレバーの動かし方

⇐エンジンスイッチが“ACC”または“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

⇐シフトレバーボタンを押しながら操作します。

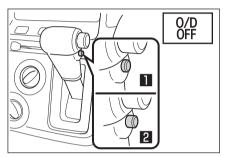
■シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
2	下り坂走行
L	急な下り坂走行

※燃費向上や騒音の低減のために、通常はDを使用してください。

オーバードライブ（O/D）スイッチ

オーバードライブをONにしておくとギヤが４速まで入り、燃費性能や静粛性を高めます。

OFFにすると４速に入らなくなり、下り坂での軽いエンジンブレーキや登り坂での不要な変速を防ぐ効果があります。

1 O/D ON
2 O/D OFF

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをＲに入れるとブザーが鳴り、Ｒにあることを運転者に知らせます。

■ シフトレバーをＰからシフトできないときは→P.215

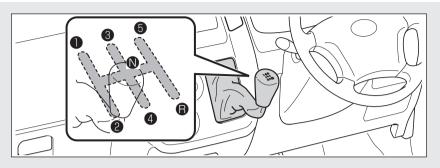
■ オーバードライブOFF表示灯が点滅したときは

オートマチックトランスミッションの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

マニュアルトランスミッション*

クラッチペダルをしっかり踏み、シフトレバーをゆっくり操作します。
誤操作を防ぐため、5からRへは直接入れることができません。
いったんNに入れてからRに入れます。

各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が以下に記載してある数値をこえないようにしてください。

(km/h)

シフト位置	最高速度
1	30
2	60
3	90
4	125

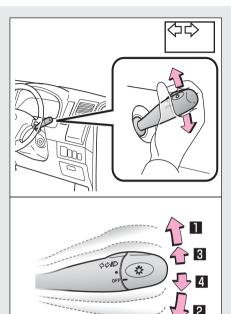
⚠ 警告

■ **すべりやすい路面では**

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

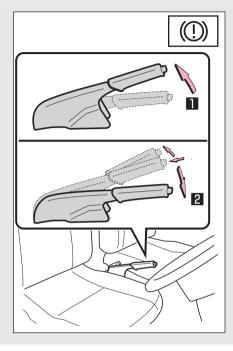
知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかける

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引きます。

2 パーキングブレーキを解除する

レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。

知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.120

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P.198

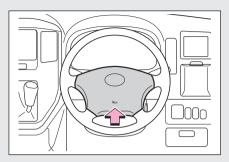
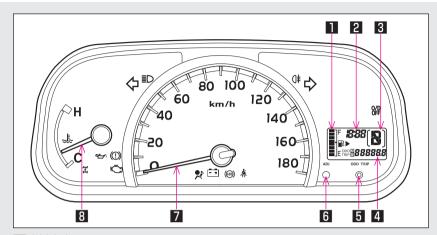
注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 📯 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

計器類

1 燃料計

燃料残量を示します。

2 時計

時刻を表示します。

3 シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。(→P.97)

4 オドメーター、トリップメーター

●オドメーター

走行した総距離を表示します。

●トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップA、トリップBの2種類で使い分けることができます。

5 オドメーター／トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットボタン

ボタンを押すごとに表示が切り替わります。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離が0にもどります。

6 時計調整ボタン

時刻を調整します(→P.104)

7 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

8 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

水温計のゲージがHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。(→P.220)

時計の設定変更

手順 1 時計調整ボタンを長押しする。

時表示が点滅します。

手順 2 時表示が点滅中に時計調整ボタンを押して、“時”を設定する。

手順 3 オドメーター／トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットボタンを押す。

分表示が点滅します。

手順 4 分表示が点滅中に時計調整ボタンを押して、“分”を設定する。

手順 5 オドメーター／トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットボタンを押す。

時計表示が点滅します。

手順 6 時計調整ボタンを押す。

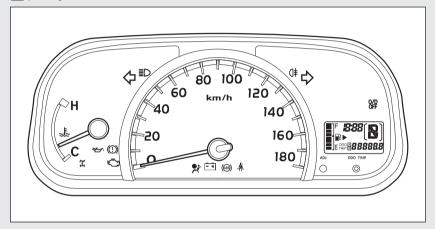
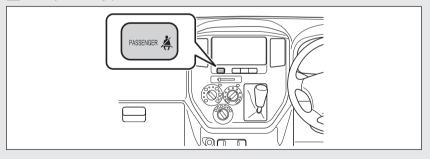
知識

■ バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うとき、時計はリセットされます。

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯／警告灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を表示しています。

■ メーター

■ センターパネル

■表示灯

システムの作動状況を表示します。

 方向指示表示灯(→P.100)

 ハイビーム表示灯(→P.107)

リヤフォグランプ表示灯*(→P.109)

オーバードライブOFF表示灯*(→P.98)

 シフトポジション表示灯*(→P.97)

 センターデフロック作動表示灯*(→P.114)

■警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P.198)

※ ※ ※ ※ ※

* O/D OFF（点滅）

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

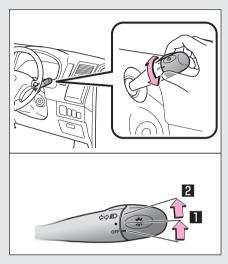
警告

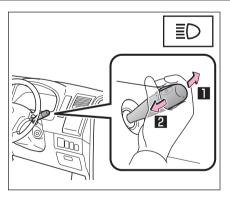
■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABSやSRSエアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

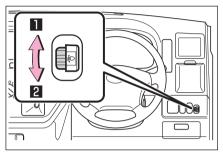
*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ランプスイッチ

ヘッドランプなどを点灯できます。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯
2 上記ランプとヘッドランプを点灯

ハイビームにする

1 ランプ点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え
   レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯
   ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員や荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
	最大積載時	3※

※架装等により異なる場合があります。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

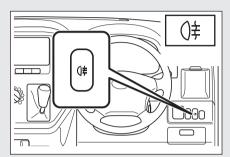
エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

知識

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ、車幅灯が点灯している状態で、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、いずれかのドアを開けると警告音が鳴ります。

リヤフォグランプスイッチ*

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
ヘッドランプが点灯しているとき使用できます。

点灯／消灯

知識

■ 点灯条件

● ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

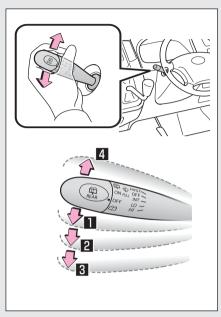
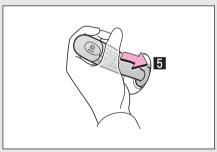
● リヤフォグランプが点灯しているときに、ヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。

■ リヤフォグランプについて

● リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯（→P.106）が橙色に点灯します。

● 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウィンドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウィンドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ フロントガラスが乾いているときは

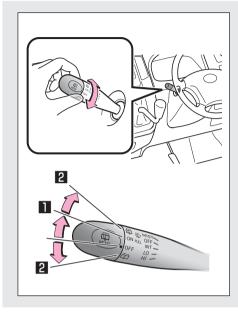
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）*

1 通常作動（ON）

2 ウォッシャー液を出す

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■ **リヤウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

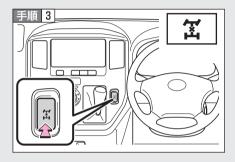
■ **ノズルがつまったときは**

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

センターデフロック*

ぬかるみなどでスタックした場合の脱出時など、大きな駆動力を必要とする走行時に使用します。

手順 1 車両を完全に停車させる。

手順 2 シフトレバーをN にする。

スイッチを押す。

センターデフロック状態になるとセンターデフロック作動表示灯が点灯します。

もう一度押すと、センターデフロック状態が解除されます。

知識

■ センターデフロックスイッチの使用条件

- ●エンジンスイッチが“ON”のとき
- ●シフトレバーがNにあるとき
- ●車両が完全に停車しているとき

■ センターデフロックについて

センターデフロックでの急旋回は避けてください。急旋回した場合、前・後輪の回転差によりブレーキをかけた状態と同じような現象を起こし、運転しにくくなります。

■ フルタイム4WDの取り扱い

4WD車といっても万能車ではありません。アクセル・ハンドル・ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重におこない、常に安全運転を心がけてください。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ フルタイム4WDについて

- ●ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。
- ●滑りやすい路面での走行は慎重におこなってください。

■ 走行中の警告

車両旋回中や車輪空転中は、センターデフロックスイッチ操作をおこなわないでください。

注意

■ センターデフロックについて

センターデフロックスイッチでセンターデフのロックを解除して、作動表示灯が消灯してもセンターデフのロックが解除されない場合があります。車両旋回時などで、ハンドル操作が重く感じられる場合は、周囲の安全を確認して加減速または後退してください。

■ センターディファレンシャルの損傷を防ぐために

乾燥した舗装路面及び高速走行では、必ずセンターデフロックスイッチをOFFにして走行してください。ONにした状態で走行すると、駆動系に無理な力がかかり、駆動装置が破損するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS(アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップ抑制に寄与します。

知識

■ ABSの作動音と振動

● エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

● 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- 車両停止後もモーター音が聞こえる
- ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

⚠ 警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ABSの効果を発揮できないとき

- ●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- ●雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABSが作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- ●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- ●タイヤチェーンを装着しているとき
- ●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- ●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ タイヤを交換するときは

4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P.231）
異なったタイヤを装着すると、ABSが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- 荷物はできるだけ荷台または荷室に積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは（室内）

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席やリヤ席*（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - ふたのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ **荷物を積むときは（室外、荷台）***

キャブと荷台の間にものを置いたり、荷台とフレームの間に板などを差し込まないでください。また、ロープやほろなどの先端がたれ下がらないように注意してください。
エンジンや排気管の熱により火災につながるおそれがあります。

■ **荷物の重量・荷重のかけ方について**

● 荷物を積みすぎない（過積載しない）でください。

● 荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■冬の前の準備

- ●以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- ●バッテリーの点検を受けてください。
- ●冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
  タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて:→P.231）

■運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

- ●ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- ●フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- ●外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- ●乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

■運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

▶オートマチック車

エンジン始動直後（とくに冷間時）は、アイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキを踏んで発進、停止時の運転に注意してください。

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車は下り坂ではR上り坂では1速に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取りつけ・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

- ●安全に作業できる場所で行う
- ●後2輪に取りつける
- ●平坦な場所でジャッキで車を持ち上げて行う
- ●タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがう
- ●取りつけ後0.5～1.0km走行したら締めなおしを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- ●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- ●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■ タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方を超える速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

エアコン

エアコンの設定

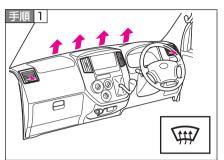
手順 1 風量を調節するには、風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす

送風を止めるときはダイヤルを0の位置にしてください。

手順 2 温度設定を変更するには、温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

手順 3 吹き出し口を切り替えるには、吹き出し口切り替えダイヤルをまわし吹き出し口を選ぶ

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にする

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。

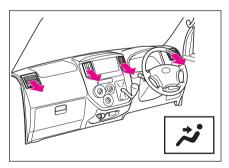
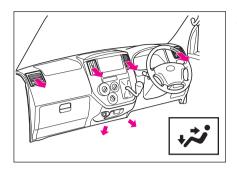
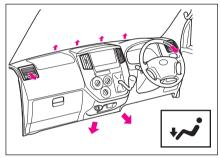
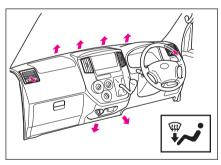
手順 2 状況に応じて次の操作を行う

●風量調節ダイヤルで風量を調整する

●温度調節ダイヤルで温度を調整する

●除湿機能が作動していないときは、 A/C を押して作動させる

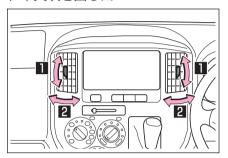
風量を強くし、送風温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

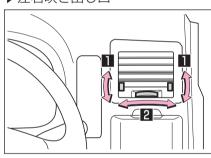
吹き出し口と送風について

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

外気導入・内気循環を切り替えるには

外気導入・内気循環切り替えレバーを左右に操作する

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶中央吹き出し口

1 風向きの調整（上下）
2 風向きの調整（左右）

▶左右吹き出し口

1 風向きの調整（上下）
2 風向きの調整（左右）

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/Cをにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/CをONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■ 外気温度が0℃近くまで下がったとき

A/Cを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ USE WITH マークについて

- このマークはガラスが曇ったときに使用する、の位置で、“外気導入”を使用していただくためのものです。“内気循環”にすると曇りが取れにくくなる場合があります。
- このマークの位置でも吹き出し口切り替えダイヤルはとまりますが、この位置での使用はおすすめできません。ダイヤルは各吹き出し口の絵表示の位置に合わせて使用してください。

■ エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ エアコンフィルターについて

(→P.185)

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

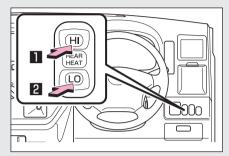
外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルを[デフロスター]の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

リヤヒーター*

スイッチの “HI” または “LO” 側を押すと、リヤヒーターが作動します。

モード	スイッチの状態	作動表示灯
1 HI（強風）		橙色
停止		消灯
2 LO（弱風）		緑色

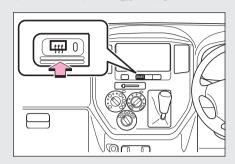
知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）*

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

ON／OFF

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

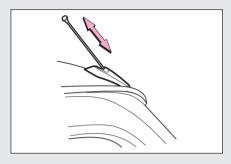
注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

曇りが取れたら必ずスイッチをOFFにしてください。
連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アンテナ

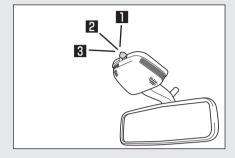
運転席側にあります。

ラジオ受信時は、節度感あるところまで引き出して使用してください。

注意

■ アンテナの損傷を防ぐために

以下のようなときはアンテナを格納してください。

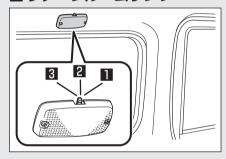
- 車庫の天井などにアンテナが当たるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機にかけるとき

室内灯

■ルームランプ

1 ON（点灯）
2 OFF（消灯）
3 DOOR（ドア連動）

■ラゲージルームランプ*

1 ON（点灯）
2 OFF（消灯）
3 DOOR（ドア連動）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ 室内灯について（ワイヤレスドアロック非装着車）

DOORの位置にしておくと、ドアの開閉に連動して点灯・消灯します。

■ 室内灯について（ワイヤレスドアロック装着車）

DOORの位置にしておくと、ドアの施錠・解錠／開閉、エンジンスイッチにより自動的に点灯・消灯します。

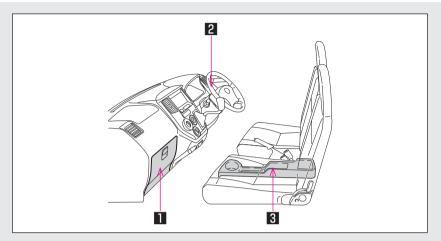
■ バッテリーあがりを防ぐために（ワイヤレスドアロック装着車）

DOORの位置にしておくと、ドア開状態で室内灯が点灯したままの場合、約10分後に自動消灯します。（エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”の場合）

注意

■ バッテリーあがりを防止するために（ワイヤレスドアロック非装着車）

エンジン停止時は長時間点灯しないでください。

収納装備一覧

1 グローブボックス

2 カップホルダー

3 センターコンソールボックス

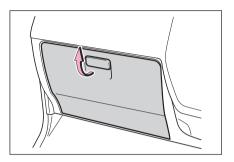
⚠ 警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

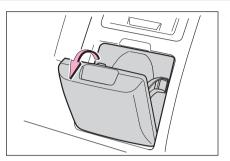
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れをおこす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

レバーを引き上げる。

⚠ 警告

■ **走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに開いたフタに体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

カップホルダーを引き出す。

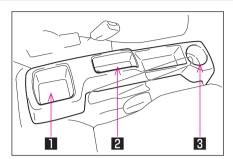
警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

カップホルダーを収納してください。
急ブレーキ時などに開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

センターコンソールボックス

1 カップホルダー（バンのみ）
2 センタートレイ
3 カップホルダー

知識

■ カップホルダーについて

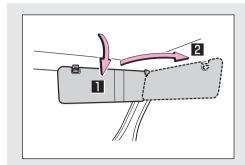
● ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

● ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

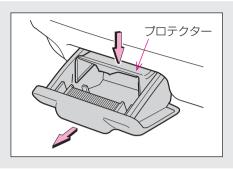
注意

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へ回す

灰皿

灰皿を引き出す。

取りはずすときは、プロテクターを下へ押したまま引き出します。

警告

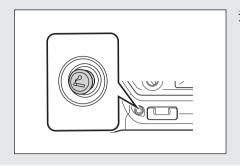
■ 使用後について

フタを必ず閉じてください。急ブレーキ時などに、開いたフタに体が当たったりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 出火を防ぐために

●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中にいれ、確実に閉めてください。

●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガーライター

シガーライターを押し込む。

もとの位置にもどったら使用できます。

知識

■ 使用条件

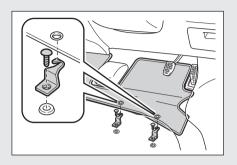
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

警告

■ やけどを防ぐために

- シガーライターの金属部分に触れないでください。
- シガーライターを押さえたままにしないでください。
- トヨタ純正品以外の電気製品の電源ソケットを差し込まないでください。ソケットが変形し、その後シガーライターを使用したときにシガーライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

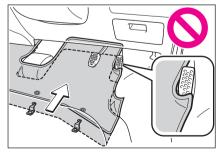
固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。
詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

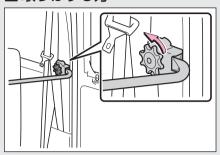
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- ●トヨタ純正品であっても、他車種及び異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止及びシフトレバーがＰ（オートマチック車）またはN(マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

ルームセパレーターバー*

■取りはずし方

左右のハンドルを回す。

■取りつけ方

取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■ルームセパレーターバーについて

取りはずしたまま走行しないでください。取りはずしたまま走行すると、違法改造になります。(リヤシート乗車時を除く)

■車検について

ルームセパレーターバーを紛失すると車検を受けることができなくなります。

注意

■ルームセパレーターバーや荷物の破損を防ぐために

走行前にしっかり固定されていることを確認してください。

■フロントシートの前後位置を調整するときは

シートとルームセパレーターバーの間に手を挟まないように注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う
  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかけます。

なお、ボディコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- 給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。
- 洗車する前に、ミラー、アンテナを格納してください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。自動洗車機に入れる前に車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。
  近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ 塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ほこり、泥などで激しく汚れたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ **塗装の損傷をさけるために**

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は使用しないでください。

■ **ランプの清掃**

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷するおそれがあります。

● ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

知識

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗りこんでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P.39)

警告

■車両への水の浸入

- 床に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
- SRSエアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→P.61)
  電気的不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(とくにインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ フロアに水がかかると

フロアを水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラス*の内側を掃除するときは

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

タイヤについて

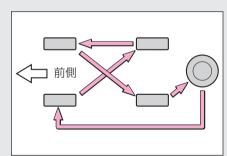
タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの磨耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。

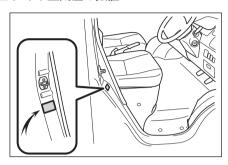
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ 点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

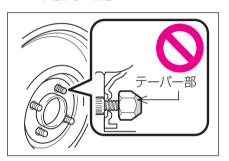
- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

⚠ 警告

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の方向安定性、制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットが緩みホイールが落下して、事故につながり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についてる場合はふき取ってください。

⚠ 注意

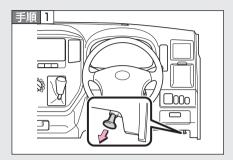
■ 走行中に空気漏れが起こったら

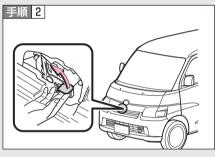
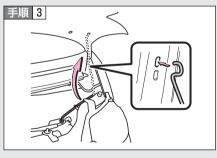
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

ボンネットステーをステー穴に差し込む。

知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

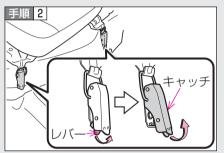
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

エンジン点検口

フロントシートを持ち上げて、エンジンルームの点検などが行えます。

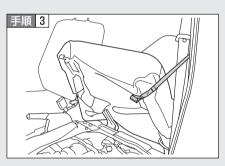
▶開けるときは

手順 1 フロントシートを前倒しする。（→P.34）

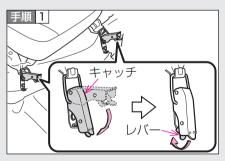
手順 2

運転席2カ所・助手席2カ所のキャッチのロックを解除する。

1 レバーを手前に引く

2 キャッチを引き上げてロックを解除する

手順 3

バンドをフックにかけて固定する。

▶閉めるときは

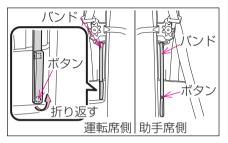
手順 1

運転席2カ所・助手席2カ所のキャッチを確実にロックする。

キャッチをロックするときは、レバーが押し込まれ、確実にロックしたことを確認してください。

手順 2 フロントシートを起こす（→P.34）

知識

■ バンドの位置

▶バン

ピラー部（ルームセパレーターバー下部）にあります。

- 使用しないときは、ピラー部にボタンで取りつけておきます。
- 運転席側は、ボタンで取りつけたあと、先端を折り返します。

▶トラック

バックパネル（シートのうしろ側）にあります。

⚠ 警告

■ 走行前の確認

点検口を閉めたあとは、確実にロックされていることを確認してから走行してください。確実にロックされていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ エンジン点検口を点検したあとは

エンジン点検口内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン点検口内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジン点検口内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ エンジン点検口を開閉するときは

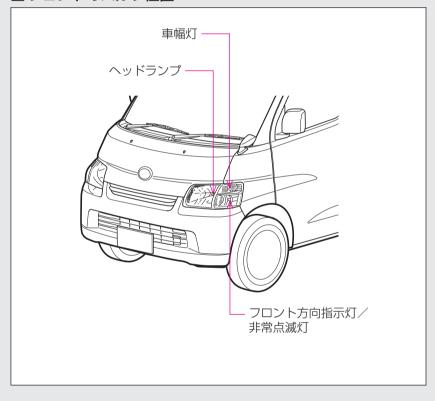
指などを挟まないように注意してください。

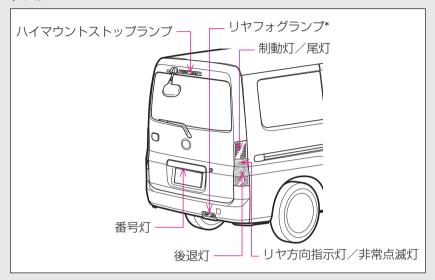
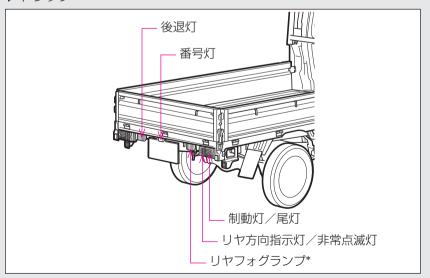
電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

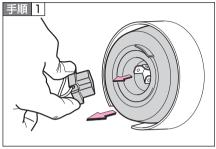
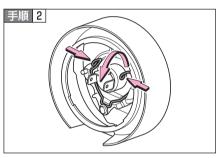
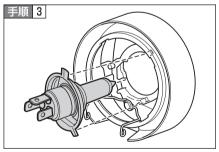
■電球の用意

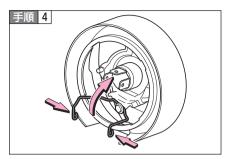
切れた電球のW（ワット）数を確かめてください。（→P.232）

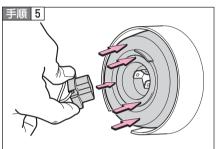
■フロントのバルブ位置

■リヤのバルブ位置

▶バン

▶トラック

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

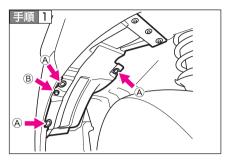
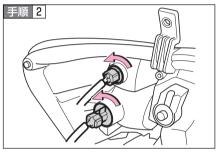
電球交換のしかた

■ヘッドランプ

コネクターをはずし、ゴムカバーをはずす。

止め金をはずし、電球を取りはずす。

電球を交換し、取り付ける。

取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

止め金で電球を固定する。

電球を軽く揺ゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

ゴムカバーとコネクターを取り付ける。

ゴムカバーを押し込んで、確実にゴムカバーを取り付けた後、コネクターを取り付けてください。

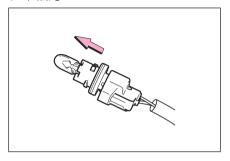
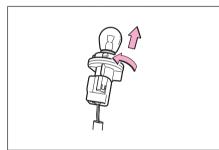
■車幅灯、フロント方向指示灯／非常点滅灯

クリップ（Ⓐ）とボルト（Ⓑ）を取りはずし、フェンダーライナーをめくる。

ソケットを回して取りはずす。

1 車幅灯

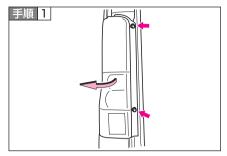
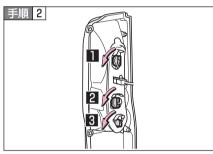
2 フロント方向指示灯／非常点滅灯

※イラストは助手席側で説明しています。

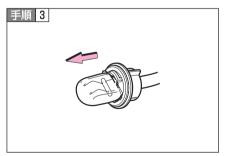
手順 3 電球を取りはずす。

▶車幅灯

▶フロント方向指示灯／非常点滅灯

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■後退灯、制動灯／尾灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯

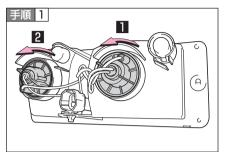
▶バン（後退灯、制動灯／尾灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯）

バックドアを開け、ボルトをはずしランプ本体をはずす。

ソケットを回して取りはずす。

1 制動灯／尾灯
2 リヤ方向指示灯／非常点滅灯
3 後退灯

※イラストは助手席側で説明しています。

電球を取りはずす。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

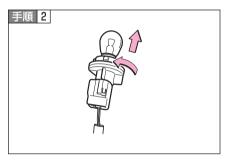
▶トラック（制動灯／尾灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯）

手順 1

ソケットを回して取りはずす。

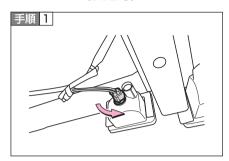
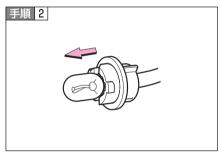
1 制動灯／尾灯

2 リヤ方向指示灯／非常点滅灯

※イラストは助手席側で説明しています。

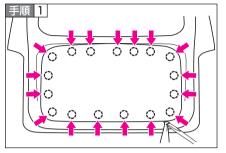
手順 2

電球を取りはずす。

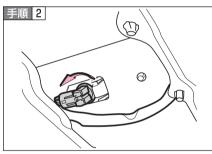
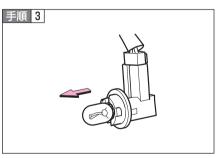
手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

▶トラック（後退灯）

ソケットを回して取りはずす。

電球を取りはずす。

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■番号灯

▶バン

バックドアを開け、マイナスドライバーと当て布を使ってクリップの勘合をはずし、内張りをはずす。

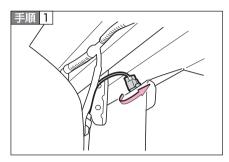
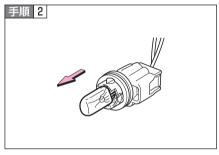
◯：勘合部分

ソケットを回して取りはずす。

電球を取りはずす。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

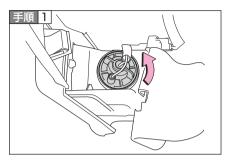
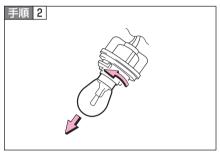
▶トラック

手順 1

ソケットを回して取りはずす。

手順 2

電球を取りはずす。

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■リヤフォグランプ*

手順 1

ソケットを回して取りはずす。

手順 2

電球を取りはずす。

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ハイマウントストップランプ*

手順 1

ネジをはずし、カバーをはずす。

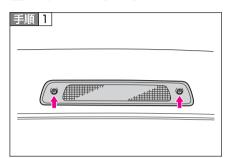
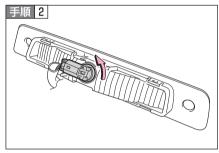
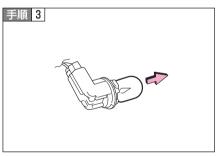
手順 2

ソケットを回して取りはずす。

手順 3

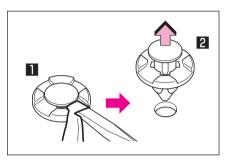
電球を取りはずす。

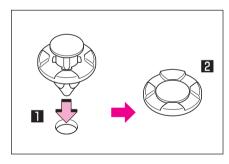
手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

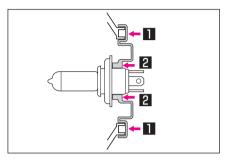
■ 車幅灯、フロント方向指示灯／非常点滅灯を交換するときは

フェンダーライナーの固定クリップをはずしてから交換します。
交換後は、必ずフェンダーライナーをクリップで固定して、しっかり取りつけてください。

●クリップの取りはずし方

1 クリップの中心部を引き出す
2 クリップを引き抜く

●クリップの取りつけ方

1 クリップを差し込む
2 クリップの中心を押す

■ ゴムカバーを取りつけるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

1 ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

2 ゴムカバー内周（電球周り）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配なかたは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 電球を交換するときは

- ●ランプは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- ●電球のガラス部を素手で触れないでください。
  プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- ●電球や電球を固定するための部品はしっかり取りつけてください。取りつけが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- ●電球、ソケット、電気回路、及び構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ お車の故障や火災を防ぐために

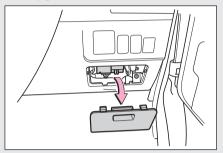
電球が正しい位置にしっかりと取りつけられていることを確認してください。

ヒューズの点検、交換

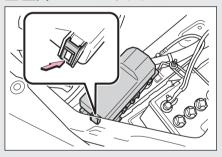
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 エンジンスイッチを“LOCK”にする。

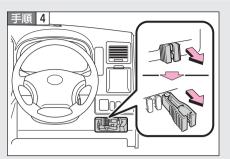
手順 2 ヒューズボックスを開ける。

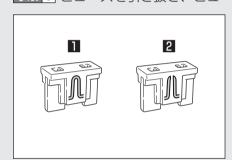
■室内ヒューズボックス

カバーをはずす。

カバーを引いてはずします。

■室外ヒューズボックス

カバーをはずす。

ツメを押しながらはずし、カバーを持ち上げます。

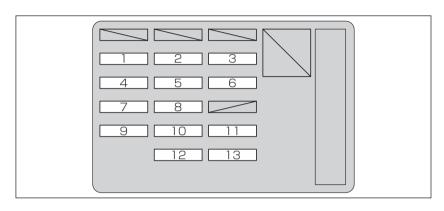
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→P.178）で確認する。

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

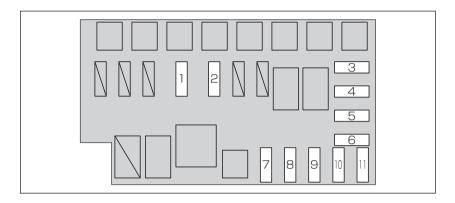
手順 5 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ 室内ヒューズボックス

ヒューズの名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR WIPER	20A	ワイパー＆ウォッシャー（フロント）
2	(DEF)	15A	リヤウインドデフォッガー
3	(D/L)	15A	パワードアロック
4	ACC	10A	電動ミラー
5	TURN/BACK	10A	方向指示灯／非常点滅灯、後退灯、エアコン
6	HORN/HAZ	10A	方向指示灯／非常点滅灯、ホーン
7	CIG	15A	シガーライター
8	ECU-IG1	7.5A	エアバッグECU、ABS ECU
9	(A/C)	7.5A	エアコン
10	ECU-IG2	7.5A	メーター、A/T ECU、4WDシステム 助手席シートベルト警告灯
11	ST	7.5A	エンジン始動システム
12	E/G	10A	ラジエーターファン、エンジン始動システム
13	(RR WIPER)	15A	ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

■ 室外ヒューズボックス

	ヒューズの名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	H-LP LH	10A	ヘッドランプ、ヘッドランプレベリング
2	H-LP RH	10A	ヘッドランプ、ヘッドランプレベリング
3	EFI	15A	エンジンコントロールシステム
4	(ABS2)	20A	ABS
5	STOP	10A	制動灯、室内灯
6	(MGC)	10A	エアコン
7	BACK UP	15A	メーター、データリンクコネクター
8	(RR HTR)	20A	リヤヒーター
9	(RR FOG)	10A	リヤフォグランプ
10	(ECU-B)	10A	電子制御オートマチックECU
11	TAIL	10A	尾灯、番号灯、車幅灯

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.160)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

ワイヤレスリモコン*の電池交換

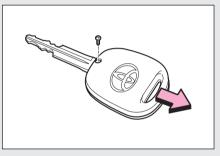
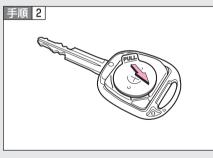
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■用意するもの

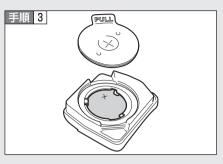
●小さいプラスドライバー

●リチウム電池CR1616

■電池交換のしかた

手順 1 カバーをはずす。

小さいプラスドライバーでネジをはずし、カバーを取りはずします。

手順 2 モジュールからゴムカバーをはずす。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 3

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は＋極を上にして取りつけます。

手順 4 ゴムカバーを取りつけ、カバーを取りつける。

知識

■ 電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

● ワイヤレス機能が作動しない

● 作動距離が短くなる

■ リチウム電池CR1616の入手

電池はトヨタ販売店、時計店及びカメラ店などで購入できます。

警告

■ 取りはずした電池と部品について

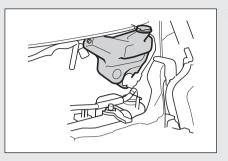
お子さまに触らせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

⚠ 警告

■ **ウォッシャー液を補給するときは**

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ **ウォッシャー液の薄め方**

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

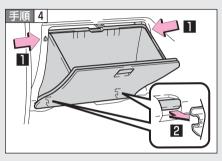
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■交換のしかた

手順 1 エンジンスイッチを“LOCK”にする。

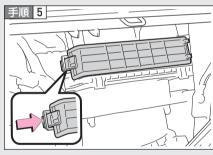
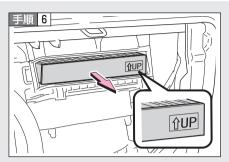
手順 2 エアコンの外気導入・内気循環レバーを内気循環側にする。

手順 3 グローブボックスを開ける。

グローブボックスをはずす。

1 上側

グローブボックスの両端を内側に押さえて、勘合をはずします。

2 下側

上側をはずしたあと、手前に引いてはずします。

フィルターカバーを取りはずす。

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

「↑UP」の矢印が上を向くように取りつけます。

手順 7 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■ 交換時期

20,000kmごと【10,000kmごと※】

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

■ フィルターについて

フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

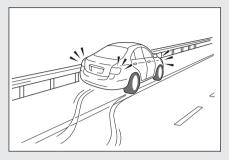
トラブルが起きたら

5

5-1. まずはじめに

5-2. 緊急時の対処

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→P.190）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

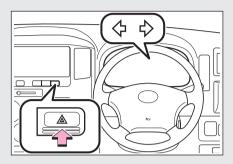
- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→P.191）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。

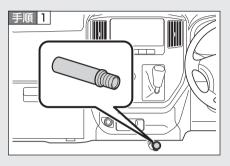
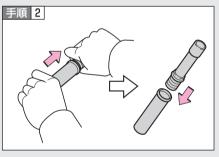
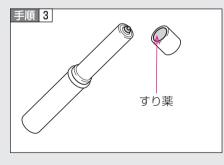
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください。)
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

インストルメントパネル中央足元の発炎筒を取り出す。

本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む。

先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまに触らせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

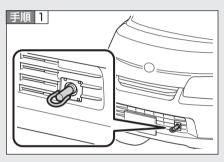
■けん引する前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

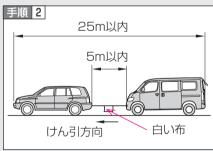
● エンジンはかかるが、車が動かない

● 異常な音がする

■けん引されるときは

手順 1

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

手順 2

ロープの中央に白い布をつける

布の大きさ：0.3m平方（30cm×30cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

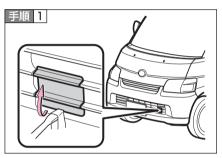
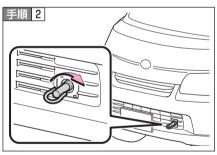
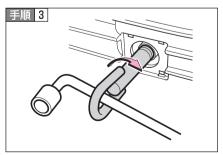
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしてください。

手順 4 センターデフロックスイッチ*をOFFの状態にし、センターデフロック作動表示灯*が消灯したことを確認する。（4WD車）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 5 けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する。

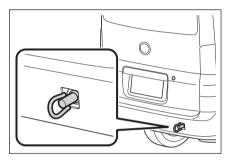
けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

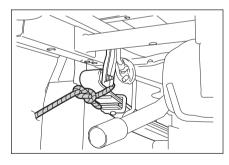
けん引フックの取りつけ方

マイナスドライバーと当て布を使ってフタをはずす。

けん引フックを穴に差し込み軽く締める。

ホイールナットレンチを使い確実に取りつける。

知識

■ けん引フックの使用目的

フロントけん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ リヤけん引フック*について（バン）

自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するためのものです。

■ リヤ側のけん引ロープをかける位置について（トラック）

自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときは、左図の位置にかけます。

■ けん引フックの収納位置（→P.201、202）

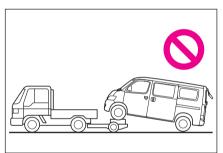
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■ けん引フックを車両に取りつけるときは

指定の位置にしっかりと取りつけてください。
指定の位置にしっかりと取りつけないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■ 車両を運搬するときは

必ず4輪接地または、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系内部の異常があると思われるとき、及び次のときは、必ず車両積載車などにより4輪とも持ち上げて運搬してください。

- センターデフロック作動表示灯が消灯せず、センターデフロックがOFF（解除）になったことが確認できないとき（4WD車）
- センターデフロック状態（ONのとき）で故障したとき（4WD車）

⚠ 警告

■ **けん引中の運転について**

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●エンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■ **他車をけん引するときは**

自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

⚠ 注意

■ **車両の損傷を防ぐために**

けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

●ワイヤーロープは使用しない

●速度30km/h以下、距離50km以内でけん引する

●前進方向でけん引する

●サスペンション部などにロープをかけない

■ **長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：パーキングブレーキをかけたまま、車速が5km/hを超えたとき、警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 エンジン電子制御システムの異常
	SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRSエアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS警告灯** ABSの異常
O/D OFF （点滅）	**電子制御オートマチック警告灯（O/D OFF表示灯兼用）** オートマチックトランスミッション電子制御システム*の異常

ただちに処置してください。

以下の警告は対処方法にしたがって処置し、警告灯の点滅が解除され、常時点灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量 （約6.5L 以下になると点滅）	燃料を給油

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

※**運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約20km/h以上になると警告ブザーが30秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり90秒間鳴ります。

知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

パンクしたときは

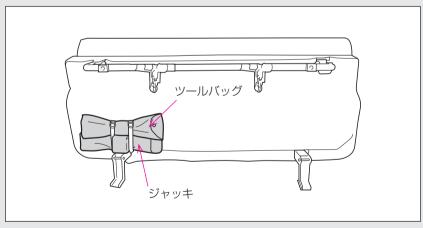
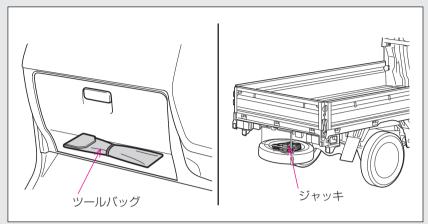
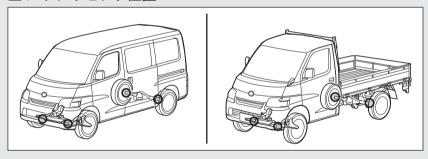
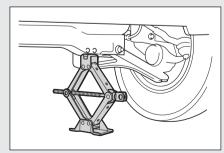
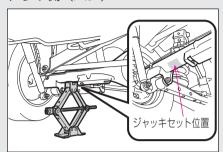
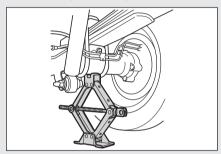
パンクしたタイヤを、備えつけのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P.153をお読みください。)

■ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーをＰに入れ、エンジンを停止する
- マニュアル車はエンジンを停止してからシフトレバーをＲに入れる
- 非常点滅灯を点滅させる

■工具とジャッキ位置

ツールバッグの中には、けん引フック、ホイールナットレンチ、ジャッキハンドル、エクステンションバー（2本）が収納されています。

▶バン

▶トラック

■ジャッキセット位置

▶フロント側

▶リヤ側（バン）

▶リヤ側（トラック）

ジャッキの取り出し方

▶バン

手順 1 リヤシートを格納する。（→P.36）

手順 2 バンドをゆるめて取り出す。

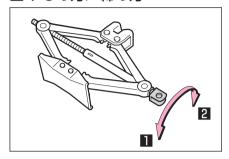
手順 3 ジャッキ袋を開け、ジャッキを取り出す。

▶トラック

手順 1 スペアタイヤをはずす。（→P.206）

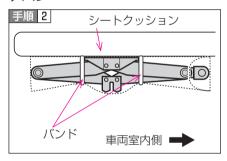
手順 2 ジャッキ袋を開ける。

手順 3 ジャッキをゆるめて取り出す。

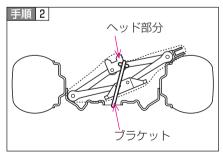
■ゆるめ方／締め方

1 締まる
2 ゆるむ

ジャッキの取りつけ方

手順 1 ジャッキをジャッキ袋に入れる。

▶バン

左図の向き（上から見た図）でバンドを締めつけて固定する。

ジャッキ袋の上にツールバッグをのせ、一緒に締めつけます。

▶トラック

左図（横から見た図）のように、ジャッキのヘッド部分がブラケットに固定するように、ジャッキを締めつける。

スペアタイヤの取り出し方

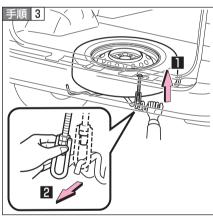
▶バン

手順 1 バックドアを開ける。

手順 2

ボルトをホイールナットレンチである程度までゆるめる。

格納具をフックから取りはずせるくらいまでゆるめます。

手順 3

格納具をフックからはずす。

1 格納具を少し持ち上げる

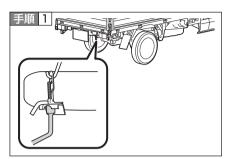
2 フックをはずす

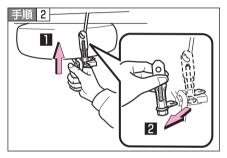
手順 4 格納具を地面におろし、スペアタイヤを両側から持ち、手前に引き出す。

スペアタイヤを少し引き出すと、スペアタイヤが格納具から落下します。そのまま引き出してください。

手順 5 格納具をもとにもどす。

格納具をフックにかけ、ボルトを十分に締めつけて、もとにもどします。

▶トラック

ボルトをホイールナットレンチである程度までゆるめる。

格納具をフックから取りはずせるくらいまでゆるめます。

格納具をフックからはずす。

1 格納具を少し持ち上げる

2 フックをはずす

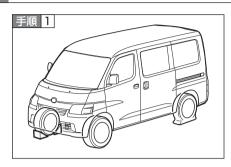
手順 3 格納具を地面におろし、スペアタイヤを両側から持ち、手前に引き出す。

スペアタイヤを少し引き出すと、スペアタイヤが格納具から落下します。そのまま引き出してください。

手順 4 格納具をもとにもどす。

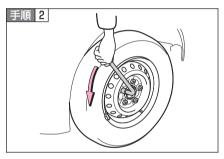
格納具をフックにかけ、ボルトを十分に締めつけて、もとにもどします。

パンクしたタイヤの交換

手順 1

輪止め※をする。

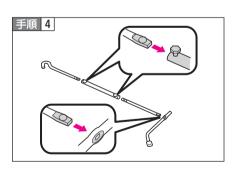
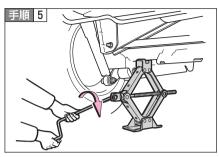
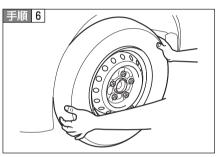
パンクしたタイヤ		車輪止め位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

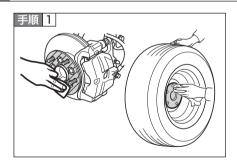
手順 2

ナットを少し（約1回転）ゆるめる。

ナットを左に回してゆるめる。

手順 3 ジャッキセット位置にしっかりかける。（→P.202）

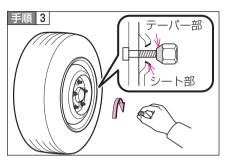
手順 4

ジャッキハンドルを組み立てる。

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

ナットをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす。

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

タイヤの取りつけ

ホイール接触面の汚れをふき取る。

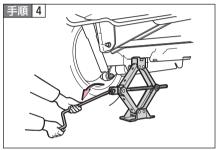
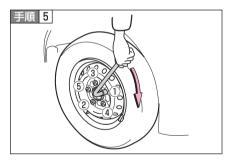
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取りつけ、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

手順 3

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す。

手順 4

車体を下げる。

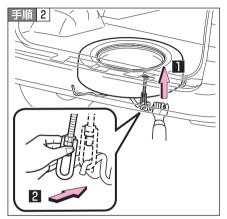
手順 5

図の番号順でナットを2、3度しっかり締めつける。

締めつけトルク：
103N・m（1050kgf・cm）

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

スペアタイヤの格納のしかた

手順 1 タイヤを格納具にのせる。

ホイールの意匠面を、バンは上・トラックは下にしてタイヤを格納具の一番奥（支柱）に当たるまで押し込みます。

手順 2 格納具を持ち上げてフックをかける。

1 格納具を少し持ち上げる

2 フックをかける

格納具を持ち上げてタイヤがボディ側に収まっていることを確認してからフックをかけてください。

手順 3 ボルトを締めつける。

知識

■ スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。（→P.231）

警告

■ ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取りつけ、取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備えつけのジャッキは、お客さまの車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客さまの車に使わない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■ タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める

・タイヤの取りつけには、使用しているホイール専用のナットを使用する

・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける （→P.155）

警告

■ スペアタイヤを取り出すときは

- 格納具からスペアタイヤを取り出すときは、足を挟んだりしないように注意してください。また、取りつけるときはしっかりと固定してください。走行中にはずれ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 格納具からタイヤを落とすなどして、手や腕・足を挟まないように注意してください。
- ボルトをゆるめるときは、20回転程度にしてください。50回転以上回すとフックがはずれてタイヤが落下し、思わぬけがをするおそれがあります。（トラックのみ）
- スペアタイヤはジャッキアップする前に必ず取り出してください。ジャッキアップしたあとにスペアタイヤを取り出すと、作業中にジャッキがはずれるなどして思わぬけがをするおそれがあります。
- 格納具のボルトをホイールナットレンチで回すときは、ゆっくりと回してください。勢いでホイールナットレンチが車体に当たり傷ついたり、手や指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。
- スペアタイヤを取り出すときは、スペアタイヤ上面とボデーの間に手を入れないでください。思わぬけがをするおそれがあります。また、排気管に手や足などを触れないよう注意してください。走行直後の排気管は高温になっているため、手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

■ スペアタイヤについて

お客さまのお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

注意

■ パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.94）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P.95）してもエンジンがかからないときは、以下のことを確認してください。

■スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

●燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

●燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P.94）にしたがって、エンジンをかけてください。

■スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

●バッテリーあがりの可能性があります。（→P.217）

●バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■スターターが回らない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

●バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

●バッテリーあがりの可能性があります。（→P.217）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

シフトレバーがシフトできないときは（オートマチック車）

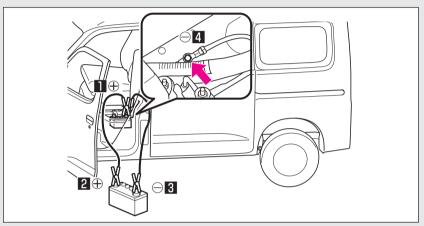
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロック（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P.20)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと12Vのバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ。

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ。

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ。

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車のバッテリーを充電する。

手順 3 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける。

手順 4 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう以下のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

⚠ 警告

■ **バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近づけない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

⚠ 注意

■ **車の損傷を防ぐために**

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因となるおそれがあります。

■ **ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してエンジン点検口を開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

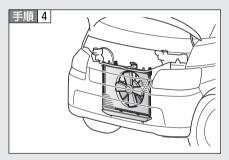
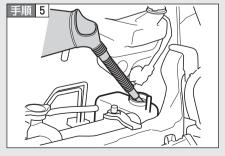
エンジンをかけたまま注意してエンジン点検口を開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する。

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。（→P.228）

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計のゲージがレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

警告

■ エンジン点検中の事故ややけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジン及びラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■ 冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

▶2WD車

手順 1 エンジンを停止する。

パーキングブレーキをかけシフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はNにしてください。

手順 2 後輪周辺の土や雪を取り除く。

手順 3 後輪の下に木や石などを当てがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーをオートマチック車はDまたはR、マニュアル車は1速またはRに確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む。

▶4WD車

手順 1 エンジンを停止する。

パーキングブレーキをかけシフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はNにしてください。

手順 2 後輪周辺の土や雪を取り除く。

手順 3 後輪の下に木や石などを当てがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 センターデフロックスイッチを押してONにする。(→P.114)

手順 6 シフトレバーをオートマチック車はDまたはR、マニュアル車は1速またはRに確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む。

警告

■ 脱出するときは

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- 後輪が空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーをN に入れる。

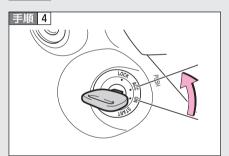
▶シフトレバーがN に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶シフトレバーがN に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様

6-1. 仕様一覧

6-2. 初期設定

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

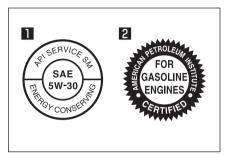
指定燃料	容量[L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	43

エンジンオイル

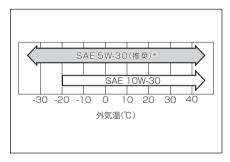
<table>
<tr><th rowspan="2">指定銘柄</th><th rowspan="2">エンジン</th><th colspan="2">容量[L]（参考値※1）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td>トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-30※2
—API SN, RC/ILSAC GF-5,
SAE 5W-30
トヨタ純正モーターオイル　SN 10W-30
—API SN, RC/ILSAC GF-5,
SAE 10W-30</td><td>3SZ-VE</td><td>3.0</td><td>3.5</td></tr>
</table>

※１エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、５分以上経過してからレベルゲージで行ってください。
※２省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル

API規格SN/RCか、ILSAC規格合格油をご使用ください。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION(イルサック認証)マークがついています。

1 APIマーク
2 ILSAC認証マーク

■エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について(例として5W-30で説明します):

- 5W-30の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-30の30は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い(数値が大きい)オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄			容量［L］（参考値）
トヨタ純正 スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度50%　−35℃	リヤヒーターあり	M/T	7.6
		A/T	7.45
	リヤヒーターなし	M/T	6.7
		A/T	6.55

オートマチックトランスミッション*

指定銘柄	容量［L］（参考値）
トヨタ純正 オートフルードタイプ T-Ⅳ	4.8

交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

トランスファー（オートマチック車の4WD車）

指定銘柄	容量［L］（参考値）
トヨタ純正 MGギヤオイルスペシャルⅡ （API GL-3 SAE 75W-90）	1.6

マニュアルトランスミッション＆トランスファー*

指定銘柄	駆動方式	容量［L］（参考値）
トヨタ純正 MGギヤオイルスペシャルⅡ （API GL-3 SAE 75W-90）	FR（後輪駆動）	1.1
	4WD（4輪駆動）	2.4

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ディファレンシャル

指定銘柄	項目	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイルSX（API GL-5, SAE 85W-90）	フロント（4WD車）	0.47
	リヤ	2.35

パワーステアリング

■パワーステアリングフルード

指定銘柄
トヨタ純正パワーステアリングフルード

ブレーキ

■ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード2500H

■ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び（負圧なしの状態）	0.5～2
踏み込んだときの床板とのすき間※	95以上

※エンジン回転時に294N（30kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■パーキングブレーキ

項目	基準値［ノッチ］
引きしろ 操作力196N(20kgf) のときのノッチ※数	6〜10

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度(“カチッ” という音)のことです。

クラッチ*

■クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード2500H

■クラッチペダル

項目	基準値［mm］
遊び	3〜20
踏み込んだときの床板とのすき間※	25以上

※クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

Vリブドベルト

項目	基準値［mm］
たわみ量 クランクシャフト オルタネーター ウォーターポンプ パワーステアリング 押力100N（10.2kgf）【冷間時】	11.5～14.5

ウォッシャー

容量［L］（参考値）
2.0

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	積載状態	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa(kg/cm^2)	
			前輪	後輪
165R13 8PR（バン）	13×5J	軽積載時	220(2.2)	260(2.6)
	13×5J	定積載時	220(2.2)	450(4.5)
175R13 8PR（トラック）	13×5J	軽積載時	220(2.2)	260(2.6)
	13×5J	定積載時	220(2.2)	450(4.5)

電球（バルブ）

電球		W(ワット）数
車外	ヘッドランプ（バルブタイプ：H4）	60/55
	車幅灯	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	5/21
	後退灯	16
	番号灯	5
	リヤフォグランプ*	21
	ハイマウントストップランプ*	16
車内	ルームランプ	5
	ラゲージルームランプ*	5

車両仕様

車両型式	エンジン	車両形状	駆動方式
S402M	3SZ-VE	バン	FR(後輪駆動)
S412M			4WD(4輪駆動)
S402U		トラック	FR(後輪駆動)
S412U			4WD(4輪駆動)

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

初期設定が必要な項目

以下の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワーウインドウ	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズの交換後	P. 51

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
4WD	4ホイールドライブ
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
INT	インターミッテント
O/D	オーバードライブ
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム

アルファベット順さくいん

五十音順さくいん

お

か

き

く

症状別さくいん

■警告灯一覧

表示	警告灯	ページ
	ブレーキ警告灯	P.198
	充電警告灯	P.198
	油圧警告灯	P.198
	エンジン警告灯	P.199
	SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯	P.199
ABS	ABS警告灯	P.199
O/D OFF	電子制御オートマチック警告灯（点滅）	P.199
	運転席シートベルト非着用警告灯	P.200
	助手席シートベルト非着用警告灯	P.200
	燃料残量警告灯	P.200

警告灯が点灯、点滅した

■警告灯の点灯、点滅を確認してください。

●警告灯が点灯、点滅している（→P.198）

■警告灯の点灯、点滅や、警告音が鳴ったときは、以下のことを確認してください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P.96
走行中	シフトレバーをRにしたとき	P.98, 99
	ブレーキを踏んだとき	P.92

ガソリンスタンドでの情報（バン）

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

フューエルリッドオープナー P.56
エンジン点検口 P.158
ボンネットフック P.156
給油口 P.56
タイヤ空気圧 P.231

燃料の容量（参考値）	43L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン（→P.57, 226）
タイヤが冷えているときの空気圧	165R13 8PR ●軽積載時 前輪 :220kPa(2.2kg/cm^2) 後輪 :260kPa(2.6kg/cm^2) ●定積載時 前輪 :220kPa(2.2kg/cm^2) 後輪 :450kPa(4.5kg/cm^2)
エンジンオイル容量	オイルのみ交換時 :3.0L オイルとフィルター交換時 :3.5L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル · SN 10W-30(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30) · SN 5W-30(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30)

ガソリンスタンドでの情報（トラック）

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量（参考値）	43L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン（→P.57, 226）
タイヤが冷えているときの空気圧	175R13 8PR ●軽積載時 前輪 :220kPa(2.2kg/cm^2) 後輪 :260kPa(2.6kg/cm^2) ●定積載時 前輪 :220kPa(2.2kg/cm^2) 後輪 :450kPa(4.5kg/cm^2)
エンジンオイル容量	オイルのみ交換時 :3.0L オイルとフィルター交換時 :3.5L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・SN 10W-30(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30) ・SN 5W-30(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30)